

## 情報紙をあなどるなかれ!



皆さんの団体では、情報紙や会報の類を、定期的に出しておられますか？

その場合、どんな人を対象に、どんな内容の情報紙を、何部ぐらい作り、どのような方法で配布されているのでしょうか？

この「コラボレーション」は月1回の発行で、ようやく今回で4号目になります。NPOやボランティア活動の実践者や関心を持っている人に役立つ情報を掲載しようと心がけていますが、まだ慣れないせいか、毎号、冷や汗をかきながらの作業です。

皆さんの中には、情報紙の編集や発送に時間をとられるよりは「現場での実践を見てほしい」と考える人がいるかもしれませんね。

でも、情報紙を作って配るという取り組みは、たんなる「宣伝」や「報告」だけでなく、NPOの運営や人材育成に大きな意味を持っています。

たとえば、どんな人に読んでもらいたいかを考えてみましょう。会員間のコミュニケーションだけでいいのか、それとも広く一般に訴えたいのかによって、掲載する内容も、体裁も、配布方法も変わってきますよね。情報紙づくりには、このように団体の理念や活動の方向性を反映させる「戦略」が必要です。

情報紙の出来次第で、会員の結束や支援者の関心が高まるとすれば・・・ゆめおろそかにはできませんぞ！



良い情報紙を作るには、いろいろな団体の発行物を見比べてみることです。ボランティアプラザには、たくさんの団体の情報紙が揃っています。ぜひ見に来てください。

### Contents

- P1-4 特集「情報紙をあなどるなかれ！」
- P5 ボランティアセクターを支える「コムサロン21」
- P6-7 コラボ広場(ボランティア・市民活動元気アップアワード応募開始! 他)
- P8 インフォメーション

## 紙媒体の強みを活用しよう

NPOには、広く情報を公開し、説明する責任があります。

情報紙は、その重要な手段です。くちコミやホームページによる情報伝達は「関心がある人にしか届かない」という難点がありますが、紙媒体は記録性があり、積み置きなど配布方法の工夫次第で、より多くの人に読んでもらうことができます。

体裁を整えれば、新会員の勧誘や、寄付などの協力依頼をする際のPR資料にもなるでしょう。だれかに「なにをやっている団体なの?」「最近どんなことをしたの?」と尋ねられたとき、団体紹介のパンフレットとともに、サツと最新号の情報紙を差し出せるようになりたいものです。

## 制作過程を大切にしよう

情報紙が完成するまでの取材や編集作業にも大きな意味があります。

記事を書く上で必要なのは5W1H(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どうした)の情報です。ところが、これを正確に記そうと思えば、団体の戦略や事業目標を、きちんと把握しておかなければなりません。とくに「WHY」や「HOW」を考へることは、書き手にとって、自分の担当だけでなく団体全体を、客観

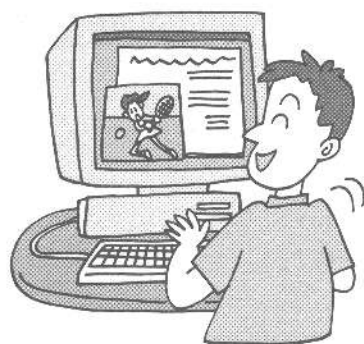
的にみる機会になります。

また「取材」も貴重な経験です。代表者や渉外担当者は別として、普段、NPOスタッフには異業種・異分野の人と知り合う機会がありません。取材は、交渉能力を高め、人脈や視野を広げるチャンスです。さらに、執筆や編集も、マネジメント能力を磨く機会になります。限られた字数と時間のなかで、主張を絞り込んで書く作業は、NPOの事業計画づくりなどと基本は同じです。

情報紙づくりを「面倒な作業」と思わず、力量をつける好機ととらえ、なるべく多くのスタッフがかわる体制をつくりましょう。

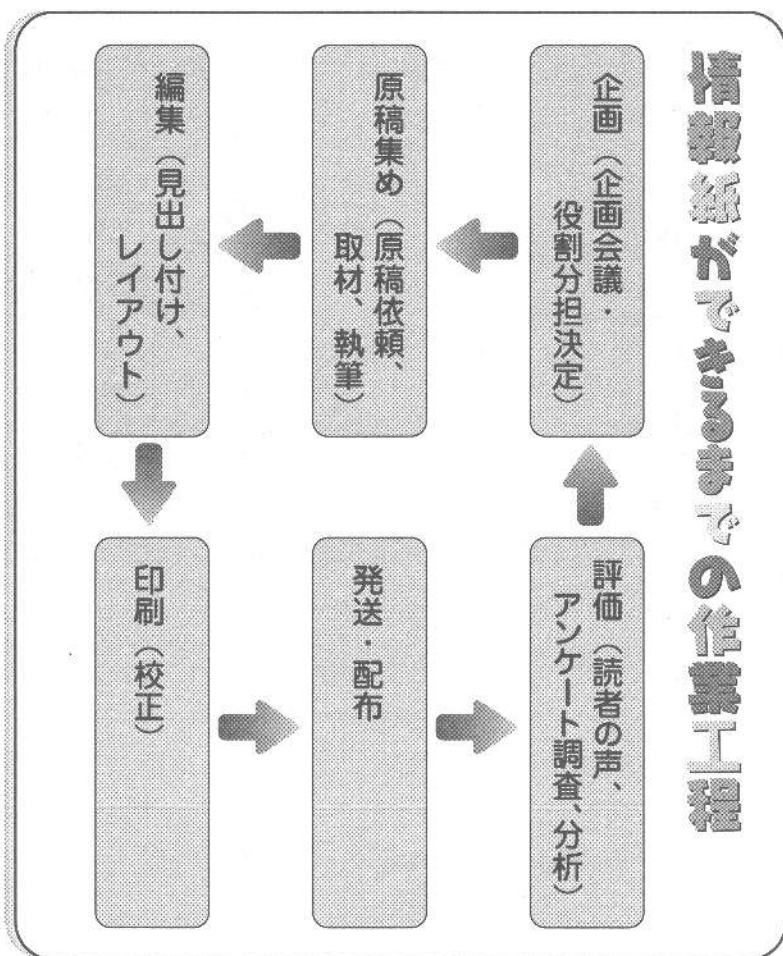
## 全体的なスケジュールを立てて

情報紙の目的が明らかになれば、次に企画から発送までの全体の作業工程を確認しましょう。その上で、発送予定日から逆算し、無理のない工程スケジュールを立てることが重



要です。特に、原稿を外部に執筆依頼したり、取材が伴う場合などは、余裕を持った日程を組んでおくことが必要です。取材は必ずしもこちらが想定していたスケジュールの範囲内で行うとはかぎりません。想定していたスケジュールの範囲内で取材ができない場合も考えて、第二の候補も考えておくことも必要でしょう。何かのトラブルでどうしても発行予定日に出せない場合もあります。その場合、募集記事など期限が設定されている記事がないかどうかを確

## 情報紙ができてからまでの作業工程



認することを忘れないようにする必要があります。情報紙ができあがるまでには、多くの人が多くの作業工程に関わりますので、スケジュール通りに進んでいるかどうか、全体の進行管理を担当する人を置くようにしてはどうでしょうか。

また、発行の後、アンケート調査などを通じて読者の声を聞き、評価をしながら、情報紙を充実させていくことが大切です。

## 情報を集めよう

企画会議で内容が固まれば、いよいよ取材です。そのテーマについて、いまなにが焦点なのか、詳しい人はだれか、関連資料や催しはないかなど、まずは情報を集めましょう。

地域情報をたくさん持っているのは、やはり行政です。最近では、ホームページに、記者発表資料と同じ情報を掲載する所が増えました。週一回程度、最新情報をチェックし、マスタープランや予算書にも目を通しておきましょう。

ただし、記事を書く場合は、行政情報だけでは一面的になる恐れがあるので、その問題に詳しいほかのNPOや学識者にも取材してみるとよいでしょう。たぐさんの情報を集め、そのなかで団体の主張を絞り込んでいきます。

## インタビュアーに挑戦しよう

素敵な人へのインタビュアーは、取材するのも、読むのも心躍ります。NPOでは「謝礼」を用意できない場合もあるでしょうから、余計にマナーに気をつけ、相手に「取材を受けてよかった」と思ってもらえるよう努力しましょう。

まず、会う約束を取り付けます。最近では依頼状を送るより、電話やメ

ールで済ませることが多いようですが、その場合でも、取材の狙いや主な質問事項、日時と場所、同行人数や写真撮影の有無などは、事前に文書で送ります。情報紙のバックナンバーも届けておくとよいでしょう。

当日は、相手に終わりの時間を確認し、その範囲内で必要なことを聞き終えるようにします。質問の順番にこだわり過ぎると、肝心な点が聞けないことも。大事なポイントは「○ですわね」と念押しします。

「掲載前にチェックさせてください」といわれる場合があるかもしれませんが、報道を旨とする新聞では原則NOですが、NPO情報紙で相手の意見を聞く場合、事実確認のためなら構わないでしょう。ただし、訂正の要求を聞きすぎると、生き生きとした記事になりません。そこは、編集者の交渉の腕の見せ所です。

事後は、掲載紙を数部、お礼状とともに送ることを忘れずに。

## 記事のスタイルを工夫しよう

記事には、いろいろなスタイルがあります。うまく組み合わせ、めりはりのある紙面にしましょう。ここでは、新聞紙面を参考に、基本的なものを紹介します。

本記：5W1Hを盛り込み、これを読めば概要が分かる、という基本的な文章です。

関連記事：本記を受けて、その反応や影響、批評などを書き込んでいきます。ルポルタージュ風に反応をまとめたり、背景や影響を解説したり、関係者のコメントを集めるなど、めりはりの利いた文体とレイアウトを工夫しましょう。文字だけでなく、図表をつけるのも一手です。

これら関連情報は、本記に含めても良いのですが、特集など長めの文章を書くときは、別に掲載した方がすっきりします。

用語解説：キーワードを取り上げ、意味を解説します。「○○とは」という書き出しで始まることが多いので、「とはもの」と呼ばれます。

論・主張：客観報道ではなく、主

観で論じます。NPO情報紙では、巻頭言や代表挨拶などが、これにあたるでしょう。短評を囲むようレイアウトしたものが「コラム」です。

インタビュアー記事：だれかに会って聞いた話を要約します。一問一答や談話など、いろいろなまとめ方がありますが、話し言葉で書くことと語り手の個性が伝わります。

スケッチ：写真をメインに、その説明をするような記事のことです。

情報・お知らせ：催し案内や助成金情報などを、コンパクトにまとめたものです。通常記事は縦書きの紙面でも、ここだけは横書きで洋数字を使った方が見やすいでしょう。

## その1 ワンポイントアドバイス

兵庫県が毎月定期的に発行する印刷媒体には「ユー・ユー」と「県民だよりひょうご」があり、その編集を担当しています。いずれの媒体も、一年間を一つのサイクルとして年度当初に、特集、ニュース、連載企画、お知らせなどのコーナー設定を決めます。つまり「原則」としてこの二年間はこういう形で広報紙を発行します」という紙面を固定化する作業を行います。特集記事についても情報を整理する必要があります。メール情報とサブ情報に分けて、サブ情報は特集記事中の囲み記事扱いにするなどの処理で、読者の関心を高めることができ

ます。すっきりと全体の情報がよく整理された紙面は、読者にとって読みやすく、わかりやすい紙面になると思います。

文字、野線、イラスト、写真、カラー印刷の場合は色などが編集作業の重要な要素となります。気を付けているのは、文字にしても色にしても、過ぎたものは避けざるがごとしです。単調さを避けようと、書体や色、飾り野を使いつつ、かえって煩雑な紙面となってしまうことが往々にしてあります。コーナー名をとびきり大きくした紙面を目にすることがありますが、洗練されたレイアウトとは言い難い気がします。まずは「シンプルでオーソドックス」を旨とした編集レイアウトを心掛けてください。

(兵庫県企画管理部広報課・宮崎威也)

## よくあるミスと対策

ひょうごボランティアプラザでは、これまでに情報紙「コラボレーション」を三号発行しましたが、その中でいくつかの失敗もしており、これらの事例も踏まえて、「よくあるミスと対策」をご紹介します。皆さんが情報紙をつくる上で、きつと参考になると思います。

### 【文章のトーン、項目等の不統一】

「コラボレーション」の二号で、神戸クリスタルタワー内の施設紹介を行いました。取材者が施設によって異なっていたため、紹介する項

目、内容の密度に不統一があり、校正で慌てて修正しました。特集など一つのコーナーを数人で分担して原稿作成する場合などに起こることがあります。取材前に、取材意図、項目、情報量などの共通理解を十分に図っておくことが大切です。

### 【記事内容のチェックは念入りに】

インターネットで見つけた助成制度の紹介記事を掲載しようとして、最終校正の際に、再度、記事の詳細を調べて見たところ、東京都内のグループでない応募できないことが判明し、差し替えるということがありました。募集記事、イベント情報などは、記事内容を正確に把握し、

大阪ボランティア協会発行の「月刊ボランティア」を編集しています。岡村です。NPOにとって情報紙というのは、多かれ少なかれその団体の考えが反映されるミッション発信塔です。そしてその機能を最大限に発揮する強みのひとつは、誌面の「双方向性」にあります。なぜ双方向性を確保、つまり参加型の誌面づくりが重要なのでしょうか。一つは、多様な角度から論理を詰めることができることです。NPOは活動を広げていくために、自らの活動の論理を構築していく必要があります。しかし編集会議だけではメンバーも固定され多様性という点で限界があります。外部からの多くの批評は、強固な論理（strong argument）がなければ、もつ（もつ）は、共感を広げ新たな支援を

得ることができるところです。誌面づくりに参加するということは、取り扱う社会的課題についてともに考え、自らの関心のうちに引き寄せられることになり、その中で自ら納得できる気持ちや学びが得られたとき、他の参加者と共感関係を作ることが出来ます。読者の参加はもちろん、作り方次第ではさまざまな製作工程で参加の機会をつくることも可能です。ぜひ、検討してみてください。

（大阪ボランティア協会「月刊ボランティア」編集部・岡村す恵）

## ポイントアドバイス

### その2

チェックのうえ掲載しないと、多くの人に迷惑をかけることとなります。

### 【写真、イラストの使用には気を付けて】

ボランティア活動の写真に掲載することがありますが、その際、写っている人の承諾をとらないと後で問題になることがありますので、気を付ける必要があります。イラストを転載する場合も著作権の問題があります。無料で使用可能なイラスト集などもありますので、活用してみてください。いかがでしょうか。

### 【原稿依頼は意図を正確に伝える】

執筆を依頼した原稿が、こちらの意図と異なった場合、修正をお願いするのはなかなか難しいものです。依頼時に、こちらの意図、文字量、文体などを十分に伝えておくことが大切です。

### 【広告の版下作成は広告主に】

情報紙に広告を掲載する場合がありますが、その内容に間違いがあれば、広告料を徴収できないこともあります。ミスをしたためには、慎重な校正も重要ですが、まず、最初の版下を広告主に作成してもらおうことが一番でしょう。

## 知ってほしい 便利なツール

情報紙を作成・発行する上で、参考となる文献、使用すると便利なソフトウェアなどを紹介します。

- 文献等
- ボランティア広報紙入門（シイム出版・1,500円）
- NPOマネジメント・第六号、ニュースレターを使いこなす（I-HOE「人と組織と地球のための国際研究所」発行・年間購読5,000円）
- NPO起業・経営・ネットワーキング（第5章・NPOの情報収集と発信）（中央法規・2,200円）

● ソフトウェア

手作り情報紙を作成するとき、「イラストレーター」「ページメーカー」などのソフトウェアを使用することも考えられますが、例えば「Word」でも、表題や見出しを付ける「ワードアート」、吹き出しなどをつくる「オートシェイプ」、レイアウトを工夫するための「段組み」、文書にコラムを作成するための「テキストボックス」などの機能を使用するだけでも、かなり見栄えのする情報紙をつくることができます。

● 第三種郵便による発送

情報紙を低料金で郵送できる制度として、第三種郵便があります。年四回以上の発行回数で五百部以上の発行、八割以上の有料頒布のほか、一定の条件を満たす必要があります。詳しくはお近くの郵便局にお問い合わせください。

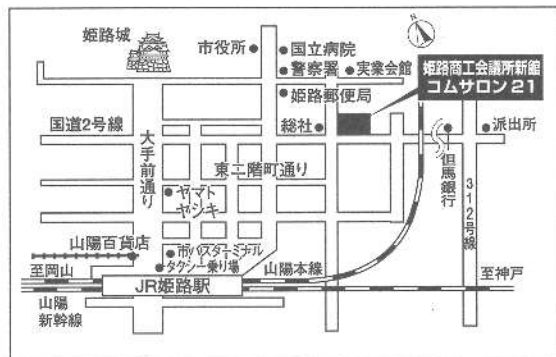
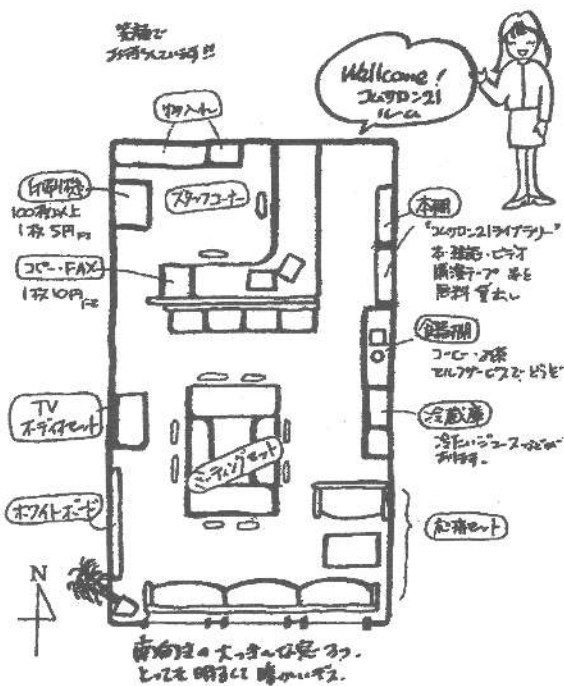


# ボランティアセクターを支える

## ～コミュニティサポート交流サロン～ コムサロン21

### ●業務案内●

- 事務局機能の代行  
事務局に困っている団体のために代行を致します。
- 会議室に  
9時から21時まで  
(曜日・時間帯によっては利用できない場合があります。)
- サロンに  
待ち合わせに、ミーティングにどうぞ。  
会員様はコーヒー・ジュースが無料です。
- ライブラリーに  
いろいろな市民活動、人づくりなどの資料・本があります。
- 情報発信に  
コムサロンニュース・電子メール・ホームページ・FAXなどでいろいろな市民活動、人づくりなどの資料・本があります。
- 市民活動人材ネットワーク  
会員及び会員外の市民活動に関する人材の講師派遣などネットワークがあります。



平成十二年一月NPO法人となった「コムサロン21」は「一人では何もできないが、一人から始めないと何もできない」という信念のもとに、社会への貢献を考えた人や活動グループの事務局として支援を行っています(現在「播磨うまいもん会」「書写塗伝承協会」など40グループの事務局機能を担っています)。

「癒しの場」から「活動の場」へ  
平成三年、メンバーに心の安らぎとなる「癒しの場」として活用してもらおうと異業種交流サロンを目的として発足しましたが、メンバー同士が人間としてやりたいこと(夢)を語り、コミュニケーションを取るうちに、個人の力では実現することが難しいことであっても、互いのネットワークや知識など持てる力を合わせ協力することにより実現

が可能であるということから「活動の場」へと機能を発展させることになりました。発足当時、大半が経済界で活躍するメンバーであったこともあり、個々の生きがいづくりの活動はまちの活性化の事業へと年々大きなものへと成長しています。その内容は「会員交流・総務」「地域交流」「自己啓発」「食文化」「教養」「歴史・文化」「経済・教育」と多岐多様にわたり、活動範囲も播磨全域に大きく広がっています(現在会員一九〇名)。

また、本年六月に姫路市内のNPO法人が連携、情報交換しながら発展をめざす「姫路市NPO法人連絡協議会」が設立されましたが、「コムサロン21」はその事務局としても活躍しています。

理事長 前川 裕司氏



**コムサロン21**  
住所 〒670-0943  
姫路市下寺町43  
姫路商工会議所新館4F  
電話:0792-24-8803  
FAX:0792-24-1553  
E-mail:info@com21.or.jp  
URL:http://www.com21.co.jp

大切にします三つのワーク  
理事長の前川裕司氏は「①ネットワーク(情報・交流・人間関係)②フットワーク(実行力・行動力)③ライフワーク(使命感・生きがい)この三つのワークと個々の気持ちをお互いに大切にし、これからもそれぞれの個性が発揮され、そしてその人々の社会貢献活動を支援していきたい」と語られています。

# ひろば

「ひょうごボランティアプラザ」の構想が持ち上がってから実現に至るまでの経緯を第二号からご紹介しています。プラザが当時の担当された方々に取材して構成したものです。今後、同様の拠点づくりに取り組もうとされている方々の参考になれば幸いです。

## プラザ開設の経緯

### ソフト先行事業スタート!

「ボランティア活動支援センター（仮称「構想」）及び「同基本計画」の中で検討されていたセンターのソフト事業のうち「NPO大学事業」をはじめとして、いくつかが平成九年度以降に先行実施されています。

ソフト事業を先行的に実施することとなった主な理由は、震災をきっかけに県内各地で活発に展開されているボランティア活動に対して、本格的な支援はセンター開設まで待つとしても、実施可能な事業は先行させるべきという意見が強かったこと、また、ソフト事業の先行実施によって、事業に関するノウハウの蓄積、職員のスキルの向上、必要なネットワークの形成などを進め、いざ開設の際に円滑なスタートをきるということでした。

平成九年度に最初のソフト先行事業として実施された「NPO大学事業」の場合、同時期、NPOも組織運営基盤の確立を図るため、人材活用、資金調達など総合的なマネジメントについて学ぶ研修を企画していたことから、同種の事業で競合するのではなく、互いに連携・協力して実施しようということになりました。そこで、平成九年度から十年度は、兵庫県、コミュニティ・サポートセンター神戸、阪神・淡路コミュニティ基金の共催

で実施され、その後いくつかの変遷を経て、現在は実行委員会形式で事業を進めています。

また、調査研究機能のソフト先行事業として、平成十一年度から「ボランティアセクター研究会」が設立されました。これは、当面、研究会での成果を研究書として刊行し、実績を積み重ねた上で、将来的には「学会」に発展させ、センターがその事務局を担うというものでした。しかしながら、既に「日本NPO学会」「日本ボランティア学会」など、いくつかの学会が設立されており、研究領域が重なるのではないかと、また学会は研究者などが自発的な研究を通じて立ち上げるものである等の理由で、学会への発展には進みませんでした。

この他にも、「ひょうごボランティアスクエア」（平成十二年度）、「NPO専門相談事業」（平成十三年度）がソフト先行事業として実施されています。これらのソフト先行事業が積み重ねられる間に、必ずしも当初の構想のような大きな施設・スペースは必要ないのではないかと、次号では、ボランティア活動条例の制定の話に入ります。



## 全体会の出前出張会議を 姫路市で開催

去る十月十八日（金）、九月二日に開催したNPO部会出前出張会議に引き続き、全体会の出前出張会議を兵庫県立武道館（姫路市）で開催しました。

参加者は、NPO部会の幹事七名と姫路市NPO法人連絡協議会（コムサロ）21・姫路心身障害市民懇話会など姫路市内のNPO法人十団体で構成）のメンバーを中心に二三名、行政部会からは、県民生活部企画調整局課長男女共同参画・ボランティア担当や地元中播磨県民局・姫路市市民局からの九名と事務局四名の計四二名が参加し、現在のNPOの課題や連携の方策等について、相互に情報交換しながら協議を行いました。

これまでの「NPOと行政の協働会議」経過説明の後、県内のNPOの現状と望まれる支援策についての意見・情報交換を行い、「NPO運営における資金づくりや、事業のアウトソーシングの課題」「NPOに関する市民や行政の認識・理解不足への対応」などの課題が取り上げられました。

地元のNPOからは、「姫路市のNPOの窓口を明確にしてほしい」「NPO法人になったら、様々な支援策があると思うが、ボラ

ンティアグループの時と変わらない」などの意見が出された。

また、「NPOとして、子どもの学力低下に対する支援をしたい」「NPOとしてIT関係の事業に取り組んでいきたい」「NPOスタッフ意識を変えていく必要がある」などの提案がなされた。

これに対し、姫路市では、市内のNPOの活動拠点としての会議スペースを開設することを検討していきたいという話も出されました。

行政の参加者からは、「これまで、行政は十分な説明責任を果たせていないのではないかと感じた。行政内部にも、NPOの取り組みの理解促進を図ってほしい」、「県と市町行政の役割分担も考えていく必要がある」との意見も出されました。

今後の全体会では、引き続き各地域ブロックでの出前出張会議を開催し、県内のNPOとの幅広い意見交換をしながら、県域でのNPO支援策や行政での施策化について協議を進めていく予定にしています。

### お問合せ・連絡先

ひょうごボランティアプラザ  
TEL 078-360-8845  
「NPOと行政の協働会議」  
のホームページ  
<http://kyou-dou.net/>

### 今月の予定

月	開催日	会議名称	開催場所	開催時間
11月	6日	NPO部会	ひょうごボランティアプラザ	13:00~15:00
	15日	全体会	生活創造センター 創作工房 (神戸クリスタルタワー4階)	14:00~16:00

# コラボ広場

## ボランティアスタッフのみなさんへ 「ボランティア・市民活動災害共済に加入していますか？」

ボランティア活動は、自発的な活動であるため、活動中における事故についても自己責任となります。このため、ボランティア自身が法律上の賠償責任を負うことがありますし、ボランティア自身がケガをすることもあります。このような活動中の「リスク」に対応するために、ひょうごボランティアプラザでは、「ボランティア・市民活動災害共済」制度を運営し、加入を呼びかけています。

この「ボランティア・市民活動災害共済」は、ボランティア活動者相互に助け合う仕組みとして創設され、現在では幅広い活動分野のボランティアグループやNPO団体の無給スタッフも加入できるようになっています。

この共済制度への加入は、グループ単位や個人で年間を通じて兵庫県内の各市区郡町社協のボランティアセンターで加入することができます。詳しくは各市区郡町社協ボランティアセンターもしくはひょうごボランティアプラザ(078-360-8845)までお問合せ下さい。

## ひょうごボランティアプラザの後援について (ご案内)

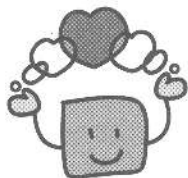
ひょうごボランティアプラザでは、県内のNPO等との協働・連携事業の推進を図るために、NPO等がプラザのセミナー室を使用して実施する講座・セミナー等について、プラザの後援名義使用の取り扱いを下記の通り決めました。手続き等詳細については、事務局までお問い合わせください。

### 基準 (下記要件の総てに該当すること)

- ・県民ボランティア活動の啓発・振興に寄与すると認められるもの
- ・プラザの事業・取り組みに寄与すると認められるもの
- ・政治活動・宗教活動等を主目的とする活動でないもの
- ・県民一般を対象とするもの
- ・当該団体等の宣伝、又は営利を目的としないもの、及び暴力行為、又は迷惑行為を伴う恐れのないもの

### 後援名義使用のメリット

- ・プラザの「セミナー室」の申し込みが、3ヶ月前から可能 (通常2ヶ月前)
- ・プラザの交流サロン内の「活動PRポケット」(団体のパンフレット等による情報提供に利用)の優先利用 (但し、数に限りがありますので、定数に達した場合には、ご了承ください)



## 3<sup>th</sup> ひょうごボランティアスクエア21!

ボランティア・市民活動元気アップアワード 応募開始!

「こんな夢を支えてくれませんか?」というボランティア・市民活動団体の願いと、その夢を応援する市民・企業等幅広い県民をコーディネートする場、第3回ボランティア・市民活動元気アップアワードへの参加団体を募集します。

### <応募資格>

主に兵庫県内で活動しているボランティア・市民活動団体  
※昨年度のこっこつコース受賞団体は、今年のこっこつコースに応募できません。

### <アワードコース>

#### 元気アップコース(企画提案型)

これからの市民社会を拓いていくボランティア・市民活動団体を応援します。(大賞100万円、他)

#### こっこつコース(活動実績評価型)

これまでこっこつとがんばってきたボランティア・市民活動団体を応援します。(大賞20万円、他)

<応募締切>平成14年12月5日(木)当日消印有効

<当日発表>平成15年1月25日(土)・26日(日)

JR神戸駅南側(デュオこうべ・ハーバーサーカスB1スペースシアター)

### 第2回ボランティア・市民活動元気アップアワード 報告会開催!

(第3回ボランティア・市民活動元気アップアワード応募説明会)  
昨年度アワード受賞団体の報告会や交流会もあります!!

**日時** 平成14年11月17日(日)  
13:30~16:30(交流会:17:00~)

**場所** シーガル神戸第3・第4会議室(JR神戸駅南5分)

**参加費** 無料!

### お問い合わせ先

第3回ひょうごボランティア・スクエア21 実行委員会事務局  
(ひょうごボランティアプラザ 事業部内)

TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848

URL:<http://www.hyogo-wel.or.jp/vplaza/>

## 「こうべ地域協同推進フォーラム」開催

地域ではさまざまな高齢者を支援する組織・団体(社協、生協、JA、NPO、ボランティア団体・介護保険事業者など)が、それぞれの特性をいかした活動を展開しています。今回のフォーラムでは、高齢者が安心して暮らせる地域づくりをめざして、こういった組織・団体のネットワーク化の方策などを共に考えるため開催します。

日時 11月18日(月) 13:00~17:00  
会場 兵庫県農業会館(中央区海岸通1番地)  
主催 (財)さわやか福祉財団・(財)住友生命社会福祉事業団  
共催 こうべ地域協同推進実行委員会  
(兵庫県社会福祉協議会他6団体)

内容 ・地域協同事例報告  
・講演「安心して暮らせる地域づくりへ」  
(講師:堀田力さわやか福祉財団理事長)

参加費 無料  
参加者 関心のある方(定員400名)  
申込み コミュニティ・サポートセンター神戸まで  
〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町2-19-21  
TEL:078-841-0310 FAX:078-841-0312  
締切り 平成14年11月11日(月)

## 住まい・まちづくりフォーラム

新たな住まい・まちづくりの担い手と期待されているNPO等のボランティアセクターとの協働を目指したフォーラムを、県下6ヶ所でそれぞれの地区や地域の課題に対応したテーマで開催しています。11月以降に開催されるフォーラムは次の3地域です。兵庫県では、こうしたフォーラムを通じて、民自律地方分権時代にふさわしい住宅・住環境の確保と住まい方を普及・啓発するとともに、公民協働の住まい・まちづくりと、各市町の特色ある住まい・まちづくりを積極的に推進していきます。

### ●北播磨フォーラム「元気なまちでありつづけるために」

日時 11月10日(日)  
会場 緑が丘町公民館(三木市)  
定員 300人

### ●中播磨フォーラム

「現在の住まい方と歴史的景観との共生に向けて」

日時 11月15日(金)  
会場 イーグレひめじ3階  
定員 200人

### ●阪神南フォーラム

「NPOとの協働による21世紀の住宅・住環境づくりと住まい方」

日時 12月8日(日)  
会場 武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル)  
定員 250人

問い合わせ・申込み

兵庫県県土整備部まちづくり局住宅地課住宅計画係  
TEL:078-341-7711 内線4638・4639  
FAX:078-362-9458

## 「第35回ボランティアのつどい」開催

第35回を迎える「ボランティアのつどい」では、多様な取り組みを行うボランティアグループが一堂に会し課題を共有化し交流を深めます。またこれからボランティアを始めようとする人

ちの出会いの場としても開催します。

日時 11月17日(日) 10:00~15:00  
会場 洲本市総合福祉会館 3階多目的ホール  
(洲本市山手2-2-26 TEL:0799-26-0022)  
主催 兵庫県ボランティア協会、洲本ボランティア協会、  
兵庫県社会福祉協議会  
参加費 無料(お弁当を希望される場合は別途800円で用意)  
対象 ボランティア並びに関係者、一般県民  
定員 180名  
申込み 所定の申込み用紙で11月11日(月)までに、下記  
へ郵送、FAXかメールにてお願いします。

問い合わせ・申込み

兵庫県ボランティア協会  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-18  
兵庫県福祉センター内  
TEL:078-242-4613 FAX:078-242-4614  
e-mail:hyogovolunteer@joy.ocn.ne.jp

## 平成14年度「福祉学習を考える集い」開催

本年度より新学習指導要領に基づき、児童・生徒による豊かな地域での生活や、福祉などの幅広い体験学習場面づくりが求められ、社会福祉と教育との結びつきはますます強まっています。この集いでは、児童・生徒主体の福祉学習および学校内外のさまざまな社会資源の活用による地域住民参画型の福祉学習の推進方策について研究協議することを目的として開催します。

日時 11月21日(木)  
11:00~16:00  
会場 神戸市教育会館  
〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-5  
TEL:078-222-4111

主催・問い合わせ・申込み

兵庫県社会福祉協議会  
(ひょうごボランティアプラザ)

参加費 2,000円  
対象 1.ボランティア協力校担当者、市町教育委員会担当者  
2.市町社協福祉学習担当者、ボランティアアドバイザー、福祉学習サポーター等  
3.青少年育成に取り組むNPO等福祉学習に関心がある方  
定員 230名(先着順)

## インフォメーションコーナーの記事募集

県内のボランティア活動団体が開催するセミナー、フォーラム、イベントなどに関する情報で、情報紙「コラボレーション・インフォメーションコーナー」への掲載を希望される場合は、ひょうごボランティアプラザまで情報提供をお願いします。なお、提供いただいた情報が紙面の都合で掲載できない場合はご了承願います。

・翌月10日以降の実施日の情報を、前月10日までに提供願います。  
(例:12月10日以降の実施日のものを11月10日までに提供願います)

・目的、概要、開催日時、開催場所、主催者、参加料の有無等を記載願います。(概ね250字以内)